

『博士の異常な鼎談』（ゲスト：堀江貴文 その1）

博士 しばらくぶりですね、宮崎さん。

宮崎 久しぶりですねえ。

博士 テレビ業界なんかで同じメンバーで「また同じスタッフで番組やりましょう！」っていう打ち上げがあるんですけど。

宮崎 あんなの実現したためしがない。

博士 ないんですけど、僕も初めてですね。本当に同じメンバー、同じスタッフで。メイクさんも同じで。

タイトルもちょっと変わってまして、『博士の異常な鼎談』ということ。

宮崎 鼎談。難しいね。

博士 鼎談っていうのは「3人で話す」っていうことですもんね。

宮崎 そうそうそう。「鼎」っていうのは「かなえ」という字ですね。

博士 はいはいはい。だからもう一人またゲストをお招きしてという、毎度おなじみと
いうか、スタイルも変わっていないってことですね。

宮崎 全然変わってないですね。

博士 実はこの番組はですね、『博士も知らないニッポンのウラ』っていう、インターネットで放送してた番組で。ですから通信でやっていたと言えればいいんですか。

宮崎 通信ですね。

博士 これ、通信と放送の融合じゃないですか！

宮崎 そうそうそう。通信と放送の融合といえばこの人。

博士 この人ということで、第1回のゲストはちょっと大物ゲストなのですが、お呼び
しましょうか。ホリエモンさんです、どうぞ！

（堀江貴文登場）

博士 一時期プライベートでも会ったじゃないですか。そのころはかなり深い話までして
たんじゃないですか。

宮崎 そんなでもないよね。

堀江 全然そんなことないです。

宮崎 堀江さんと武部勤さんを引き合わせたのは俺だという噂だけど、全く違いますよ
ね。

堀江 全く違いますね。

博士 でも武部さんに呼ばれて、きのうは会食をやったんだっつって、どんなことを
て「ブリーフィングだよ」って。

堀江 でも武部さんって全然裏がない人ですけどね。

宮崎 表も裏もない。

堀江 本当に表も裏もない、ただの「いいおっちゃん」ですよ。

博士 武部さんの息子さんと親しくて？

宮崎 長男の……

堀江 いや、次男です。

宮崎 ごめんなさい。次男さんと親しい。

堀江 そうそうそう。それで例のメール事件みたいな話になっちゃったんです。

博士 へたしたら大阪の番組で、宮崎さんがね、「いやあ、亀井のところで出そうかと思っただよ」みたいなことをね、言ってんですよ。

宮崎・堀江 あははははは。

博士 「おもしろいだろ、それは」って。

宮崎 それだとおもしろいなあって思っただけ。

博士 でも現実には、本当になったじゃないですか。

宮崎 それは関係ない。おれの意向とは関係ない。(笑)

堀江 どっかあいている、自民党と協力するっていう意味で言ったら、大阪四区だか何だかとか福岡の一区だか、そういうところがあいているよって言われて、あとどこがあるんですかって聞いたら「広島六区ってところがあってさあ」みたいな。「亀井さんがいるんだよ」みたいな。

博士 対立軸としては一番ねえ。

宮崎 一番おもしろいですよ。

堀江 まあでもあそこは知り合いがたまたまホテルを持っていたんで、そこに泊まれるなあと思ってそこにしたんですけど。

宮崎 そうしたことだったの。

堀江 そうしたことだったんです。

博士 僕ね、2003年に堀江さんのインタビューをとってるんですよ。

堀江 僕の昔の家までいらっしゃいました。一戸建ての。

博士 僕は社長バラエティーをやっていて。当時はまだ、まあ経済界では知られていたかもしれないけど、一般的にはまだ全然認知がなかったんで。その後の2004年6月ですよ。近鉄を買収するっていう話になったときに、まだホリエモンっていう名前もないから、『報道ステーション』に「堀江貴文さんて、どういう人だか全くわからないと思いますが」って言ってインタビューが放送されたんですよ。それが僕が『トゥナイト』っていう番組でとってるインタビューだった。

宮崎 ああ！ あったな。あったな。

博士 で、おれだけトリミングされてんですよ(笑)。映らないように。

だから最初に『報道ステーション』で放送されたのは、僕がとっていたインタビューだ

ったんですよ。あとね、クイズ番組と一緒に。

堀江 ああ、出ましたよねえ。

博士 『平成教育委員会』。

堀江 で、いきなり打ち切りになったんですよねえ。(笑)

博士 いきなり番組がボツっていうかね。

堀江 あははははは。

博士 「この人は番組の問題なんかすぐお金で買えるような人だから」っていうようなギャグをいっぱい言ってたんですよ。「へたすればフジテレビごと買っちゃいますよ」とかって冗談を言っていたら、次の日、本当になっちゃったんです。(笑)

博士 当時、あれだったじゃないですか。買収しかけたときなんかは「ホリエモンが買収に成功したら、番組はもう拒否します」とかね。「ニッポン放送のDJをやめます」とか。タレントはそこまで表明したりしてましたもんね。

堀江 そうですねえ。結構、言わされてましたねえ。ニッポン放送とかねえ。

博士 だって、タモリさんとかもユーミンとかも、そんな話が出たり。

堀江 そう。そこまで言われるとは僕も思わなかったんで。割とこう、番組内容をどうのこうのっていうことは全く考えていなかったんで。単純に資本がかわるだけだろうって僕的にはそういうふうに思ってたんですけど。オーナーは別にだれだっていいじゃんみたいな感じだったんですけど。元々だって鹿内さんがオーナーだったんだし、みたいな。

宮崎 そういえばさ、さっきプライベートで会ったって言っているときに、既にもうテレビ局解体みたいな話はやってなかったっけ。

堀江 ん〜、してたかもしれないですね。

宮崎 あるテレビ局の……

堀江 WOWOWとかには言ったことあったんですよ。WOWOWを買おうとしたりとか。テレビ局もテレビ朝日とかそういうのは全部検討しましたよ。

宮崎 はっきりとは覚えてないんだけど、「いやあ、テレビ局はお金だけでなくて政治力もないと買えないと思うよ」みたいなことを言ったと思う。

堀江 そうですね。私はそれを使って影響力を保持しようとか、そういう考えは一切ないんですよ。単純に、インターネットのうちのサイトに客を呼びたいってだけだったんで、そのための宣伝媒体として確保したいっていうだけの意識だったんですけど。

宮崎 こんなに買収することにコストがかかるとは思っていなかった？

堀江 そうだし、向こうにもそんなに拒否されるような、別に悪い話じゃないと思うんだけどなっていうふうに僕は思っていました。

博士 コンテンツそのものをいじるつもりはなかったから？

堀江 全くないです。

博士 だからニッポン放送買収を仕掛けていても、そのフジテレビの番組にもずっと出られるっていうふうに思っていたんですね。

宮崎 それがいきなり出入り禁止になっちゃった。(笑)

堀江 出入り禁止になっちゃった。

博士 だからそこまで拒否反応があるのかってのは計算できなかった。

堀江 そこはわかんなかったですね。

宮崎 いまだに自分は世間から誤解されているところが多いと思う？

堀江 思い……ますね。例えば事件の話とかも、やっぱり誤解されている部分も多いかなあみたいなの。報道のされ方にもよるんでしょうけどね。

博士 人間関係に関してすごくドライだから。「半分の人が嫌いでいいよ、半分好きだったらいいんだから」みたいに。

堀江 そうそうそう。それをだから、僕もそう思っただけでずうっとやってきたんですけど。だから嫌われたって、別に嫌いだって言われているだけの話で、ああそうですかで済めばよかったんですけど、嫌いだっていう人たちが権力を動かしたらどうなるのかっていうことまでは余り考えていなかったですね。本当にこういうふうに動かしちゃうんだみたいな。

博士 ちなみにですね、上場してから一斉逮捕まで、わずか6年ですからね。

堀江 そうですね。上場から6年ですね。

博士 たった6年で、ここまでスピードで駆け上がって一斉逮捕まで行った人はいないなと思いますよ。

堀江 相当、脅威に思ったんでしょうね。

博士 思ったでしょ。このスピード感っていうのは、やっぱり思いますよね。

堀江 ま、とまりましたけどね。

博士 多分ね、経団連に……

堀江 いや、経団連の話をしごくされるんですけど、僕は全く、経団連のことなんかどうでもよかったんですけどね。

宮崎 向こう側がどうでもよくなかった。

堀江 向こうはどうでもよくなかったかもしれないですけど、たまたま選挙のときに参謀をやっていた園田君っていうのが、経団連に入ったらどうですかって言うから、じゃあおまえ勝手にやれよって言って。おれはどうでもいいからそんなもん、おれは絶対に行かないからねって言って。

宮崎 堀江さんはそういう意識だったんだろうけど、旧エスタブリッシュメントの側からすると、あれが経団連に入ったらもう日本の経済はあれに乗っ取られるぐらいの……

博士 無礼者が土足で経団連に入ってきてるような印象を持つんですよね。

堀江 ああ、そうなんだあ。

宮崎 この認識のギャップが結局……

博士 捜査にまで行ったということなんですけど、きょうはですね、質問とイエス・ノーを上げてもらうんですが。

堀江 はい。

(動画その1終了)